

第29回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：優秀賞（低学年の部）

タイトル：だれのかな

氏名：濱島 大海（ハマシマ タイガ）

小学校名：鹿児島県 長島町立鷹巣小学校 二年

「あっ、お金。」

ぼくは、ゆうびんきょくの前で五円玉を見つけた。

「ちゅうざいしょにもって行こう。おとしものをひろったらちゃんととどけるんだよ。」とおかあさんが教えてくれた。「ちゅうざいしょってどんなところだろう。このお金はだれのかな。こまっていないかな。」お金をおとした人のことがしんばいになった。

ちゅうざいしょにつくと、わるいことしていないのに、きゅうにしんぞうがドキドキして、お金をもった手にあせが出てきた。

目の前には、やさしそうなおまわりさんがにっこりわらって立っていた。

「ゆうびんきょくのちゅうしゃじょうにお金がおちていました。」

きんちょうして、いつもより小さいこえになっていた。

「ありがとう。どのへんでなん時ごろですか。お金をひろった人の名前とじゅうしょとでんわばんごうを教えてください。」

ぼくは、じぶんの名前だけ言って、あとはおかあさんにこたえてもらった。

「おとしものもちぬしが三か月たっても出てこなかったらこのお金はたいがくんのものになるんだけど、どうしますか。」

と、おまわりさんが言った。

「ぼくは、そのお金はいりません。」

とこたえ、「ぜったいにもちぬしのところにもどってほしいな。」と心の中で思った。

おうちにかえりつくと、おじいちゃんやおばあちゃんたちに、ひろったお金をちゅうざいしょにとどけたことをつたえたら、みんながぼくのことをほめてくれて、とてもうれしいきもちになった。おまわりさんからもらった「しゅうとくぶつあずかりしょう」と書かれたかみは、おかあさんがアルバムにはってくれて、ぼくの大切なたからものになった。